

平成三十年年度 修士論文・卒業研究題目一覧

修士論文

南九州方言における待遇表現

—— 尊敬形式「ル・ラル」「ヤル」を中心に ——

松尾 隆 矢

卒業研究

大池ゼミナール

六朝楷書の字形と線の研究

—— 龍門四品を中心に ——

吉川 綾 華

趙之謙の筆法

—— 逆入平出と隸書張衡靈憲四屏 ——

高久 紘 実

吳昌碩の行草書

長谷川 光 平

勝亦ゼミナール

ヤマトタケルをめぐる女性たち

赤川 愛

大伴坂上郎女論 母として家刀自として

浅野 結

『落窪物語』 女性論

稲垣 瑠 花

『源氏物語』における落葉の宮の登場意義

生田 えりな

『不死の薬』考

—— 神仙思想と物語から見る不老不死 ——

小澤 敏 信

陰陽師蘆屋道満考

加藤 亮 人

『長恨歌』と『源氏物語』 桐壺巻

久野 陽 平

万葉集、古今和歌集、新古今和歌集における

「夢」と「つつ」

杉山 みなみ

『竹取物語』におけるかくや姫の描かれ方

角谷 咲 苗

『和泉式部日記』の時間について

千田 健 史

『今昔物語集』と『六の宮の姫君』

—— 女性観と仏教観から見て ——

瀧川 弓 香

『三条右大臣集』論

滝澤 祐 実

神話における冥界

——『古事記』黄泉国考察——

辻 ちなみ

清姫論 なぜ名も無き寡婦は清姫になれたのか

長野 大夢

僧正遍昭について

服部 汐音

夢枕獏『陰陽師』と古典文学の関係性

古橋 直也

『更級日記』における浮舟の役割

宮坂 玲那

『貧窮問答歌』論

山田 知佳

『とりかへばや物語』のうわさと秘密保持

頼 則 若 奈

『篁物語』の面白さのメカニズム

鈴木 菜月

甘露セミナール

開けられた太宰のパンドラの箱

——『浦島さん』に隠されたトラウマ——

荒木 大輔

牛乳石鹸共進社「パウンスシアボディソープ」

ラジオCM企画案

榎戸 ゆき

大宰治著『カチカチ山』原作との比較と

読み手に与える効果について

江原 響

『お伽草紙』「瘤取り」の解釈とリメイク案

加藤 奈緒佳

大宰治『カチカチ山』の解釈と翻案

木内 亨

『キッコーマンのしょうゆ』テレビCM企画案

菊池 彩花

『お伽草紙』「浦島さん」の解釈とリメイクの企画案

葛谷 春菜

『お伽草紙』「舌切雀」の解釈とリメイクの企画書

鞍本 里都

『お伽草紙』「瘤取り」の解釈とリメイク案

白鳥 愛佳莉

大宰治『お伽草子』「浦島さん」の解釈

瀬戸 琴海

『お伽草子』「浦島さん」の解釈

——大宰治のパフォーマンス—— 曾我部 菜奈

『セメダイン』のキャッチフレーズの企画書

南部 崇

『お伽草紙』 「舌切雀」の解釈とリメイクの企画書

福井 雄登

樺坂46とAKB48の歌詞に見られる特徴

小坂 桃加

『お伽草紙』 「瘤取り」の解釈とリメイク案

古寺 真衣子

ライトノベルのタイトルの分析

—— 長さ・文型・表記等 —— 佐々木 章人

『お伽草紙』 に見る太宰の自己顕示欲

古橋 裕太郎

清涼飲料のネーミングについて

—— 炭酸飲料・コーヒー飲料・茶飲料を例に ——

『お伽草紙』 「浦島さん」の解釈とリメイクの企画書

堀部 竜司

佐藤 真由子

『瘤取り』 太宰の表現テクニックとリメイク案

三崎 雄太

及びコーナー展開から探るジャンル特性

澤 理沙子

『お伽草紙』 「カチカチ山」の解釈とリメイクの企画書

山口 大介

ゆるキャラのネーミング研究 清水 玲弥

邦楽における太陽と月の比喻表現について

福永 理湖

後藤セミナール

故事ことわざ慣用句における動物

—— 「馬」と「犬」について —— 高橋 颯人

緑色の種類及び文学的使用法について 尾崎 由佳

ライト文芸の成立経緯とタイトルについて

加藤 かのこ

日本の文学作品における果物の表象 寺西 香月

邦字新聞と英字新聞の社説のタイトルの対照研究 大井 まみ

—— 依頼表現を中心に —— 田中 麻友

関連性理論における振り仮名(ルビ)について

—— ライトノベルタイトルを中心に ——

本田 梨乃佳

子どもの歌における詩の特性について

—— 唱歌・童謡を中心に ——

山田 実沙紀

酒井ゼミナール

「SF」とは何か

—— 伊藤計劃『ハーモニー』から考える ——

伊藤 美有

江戸川乱歩「人でなしの恋」論

—— 芸術観の変遷を視座として ——

井上 和美

流行するライトノベルの傾向を探る

文学テクストはオートポイエーシスの夢を見るか?

—— 『定本竹内浩三全集 戦死やあわれ』を読む ——

小島 美紅

『二十四の瞳』

—— 改稿過程からテーマを考える ——

奥村 瑠花

岡崎京子作品の魅力

—— なぜ広く読まれるのか ——

川上 聡子

戯曲における鏡花の妖怪の描き方

—— 「夜叉ヶ池」「海神別荘」 ——

「天守物語」から見る ——

小林 裕美

ケルト神話と日本の共通性

—— 『デュラララ!!』から見る神話の妖怪 ——

澤田 葉月

ミステリー小説における叙述トリックの性質

杉田 遼也

文化人類学者・上橋菜穂子の描くファンタジー

—— 『精霊の守り人』論 ——

鈴木 ゆり子

『星の王子さま』は誰に向けた物語か

異類婚姻譚

田中 雅人

—— 「鶴女房」と『美女と野獣』 ——

都築 愛里

手塚治虫の生命観

中尾 凜 薫

徳竹ゼミナール

現代のミステリー小説の在り方とは

怪物退治の英雄研究

西 條 晃 広

——本格ミステリ『水車館の殺人』にみる

異類婚姻譚における結末と異類の関係について

エンタメとしてのミステリー——西 脇 美 帆

樋 口 絵 里 菜

『三四郎』を読む

福井ゼミナール

——三四郎の視点を疑って——林 さくら

『リアルロボットアニメ』としての『機動戦士ガンダム』

『古事記』の刀剣をめぐる

——その意味と未来へ向けて——松 本 祐 紀

上代文学における装身具
池 川 紗 帆

『千と千尋の神隠し』における「食」と少女へのメッセージ

上代文学における装身具

山 本 璃 子

——『万葉集』のかんざしを中心に——

小説『不如帰』に描かれた山科での

刈 谷 磨 依 子

武男と浪子の邂逅は現実でありえたか

説話における治療術の変化

臼 井 大 喜

——『今昔物語集』と『長谷寺験記』を中心に——

うつ病の文学

長 谷 川 里 奈

——研究と創作——海 野 満 理 奈

上代文学における「山」と「川」

『君たちはどう生きるか』

——擬人化を中心に——

——原作についての考察——宮 川 奈 々

万葉集88番歌における「月」
加 藤 孝 輝
鈴 村 梨 紗

『源氏物語』の手紙について

——男女の比較を中心に——高 藪 優 花

説話における「亀」

—— 浦島説話を中心に ——

橋本 恵里花

「紀伊国牟婁郡悪女」の成立

坂野 花奈

王昭君像のイメージ

藤井 春菜

宮内ゼミナール

フィクション作品における広島方言のイメージ調査

橋本 樹

洋画の翻訳表現の特徴

—— 字幕と吹き替え ——

青柳 智子

名探偵コナンにおける役割語

—— 少年探偵団を比較して ——

足立 佳南子

つくく作詞の歌詞の特徴

稲垣 早奈恵

飲料品のネーミングの特徴

今村 紗希

翻訳者の年代による翻訳表現の違い

—— 『レ・ミゼラブル』を資料として ——

小栗 一穂

小説作品における大人向け表現と子供向け表現の違い

—— 江戸川乱歩同作品の比較において ——

國枝 翼

「男性語」を話す女性キャラクターの言語表現

國吉 勇佑

動物キャラクターの言葉づかい

小池 真由子

現代における「かわいい」の多義語化について

小松 由奈

菓子名から見るネーミングの法則と特徴

坂井 万佑子

森見登美彦の文体研究

—— オノマトペに着目して ——

坂下 諒

札幌市の多言語景観

—— 外国人が訪れる観光地を例に ——

佐藤 莉奈

観光広告におけるキャッチコピーの特性の研究

角南 仁美

聴覚表現の研究

—— 小説・マンガ・音楽レビューを資料として ——

中西 峻

SNSにおける疑問符「？」の使用実態調査

根尾光輝

「オネエ」キャラクターの言葉遣い

—— 漫画・小説・ゲームを対象に ——

三谷明日香

リポグラムによって発生する表現特性

ステレオタイプ外「ボク少女」の言語表現

宮澤優華

SNS等における現代の「笑い」表記の種類について

森山莉奈

渡辺朱音

宮澤ゼミナール

LINEによる親疎の距離感に基づく既読無視の効果

飯尾望

送信相手の親しさと性別による

LINEの絵文字と顔文字の使い分けについて

高須祐希

「くりかえし」が謝罪会見に及ぼす影響について

本多佑也

ディズニーマーション映画における

日本語吹き替えに関する分析と考察

—— オリジナルの音声と ——

日本語吹き替えの比較から ——

角保史菜

受け取り手の視点から見たレトリック

—— アンケートによる「摩擦」の効果分析 ——

竹中敬彦

学生の敬語に対する意識の傾向

磁石の漫才における《磁石らしさ》とは

—— 手法の種類と新旧比較 ——

空間的情報の扱い方と傾向

ジェスチャーは誰のために行われるか

音声の高低・速遅による印象の変化

年齢に応じた良い接客とはどのようなものか

磯部妃菜子

伊藤陽太

桑村卓弥

小西麗菜

今野愛恵

3種類の説明文の型にみる分かりやすい説明

—— 複数人への説明場面において ——

後藤彩

表現により書き手の意図と読み手の解釈を繋ぐ

—— 怖さを感じる小説を中心に —— 榮 田 亜 槻

あいさつ「おはよう(ございます)」の用法の拡大

澤 田 愛

日本語学習者の日本語会話時における適切なあいづち

—— 日英のあいづちの差から —— 富 田 ことみ

女性ファッション誌における

流行語とInstagramのハッシュタグとの関連性

久 田 千 聖

アンケート調査に基づく人を不快にする話し方

平 田 漣

料理レシピ本における文章構成の傾向と特徴

藤 原 栞

広告における言語が与える印象の違い

宮 北 彩 野

コミュニケーションの実態

山 田 杏 奈

柳沢ゼミナール

『おくのほそ道』から探る芭蕉と幕府の関係

安 藤 敦 也

古田織部と細川三斎にみる大名茶

宇 野 響

佐渡に密集する皿屋敷伝説

—— 四力所も存在する理由 ——

太 田 玲 央

『好色一代男』における吉原の遊女

七不思議伝承の比較

櫻 井 俊 輔

—— 「片葉の葦」の共通性 ——

玉藻の前伝説の変化

石橋物における獅子について

笹 木 雅 俊

落語「死神」のルーツと噺家の比較

絵巻に描かれた犬の生活

徳 田 七 海

—— 鎌倉時代を中心に ——

『葛の葉』戯曲における女性の登場人物

落語『芝浜』の比較

服 部 祐 也

—— 円朝と三木助、志ん朝と談志 ——

林 美 里

廣 海 斗

伊藤若冲の鶏図の比較

淵上友海

中世日本社会の童子信仰と救済構造の考察

『雨月物語』『菊花の約』 翻訳論

—— 現世の不安と後世の安楽 —— 渡邊 研人

—— 『古今小説』『范巨卿鶏黍死生交』との比較 ——

牧 凌平

—— 死と生に関する儀礼を中心に ——

『銀河鉄道の夜』の原稿の変遷

三輪 志帆

視覚化された地獄

大住 千秋

伊坂幸太郎作品の小説と実写映画の比較

上田 紗音梨

—— 『往生要集』の受容から

『南総里見八犬伝』における伏姫の存在

神戸 菜々美

—— 『日本的な地獄の成立まで ——

『ノルウェイの森』の恋愛について

高阪 優花

近代における報徳仕法と模範村

木村 実咲

—— 『国境の南、太陽の西』と比較して ——

高阪 優花

—— 岐阜県蛭川村を事例に ——

米谷 美穂

岡崎京子論

高阪 優花

一向一揆を巡る戦国合戦譚の変遷

佐々木 花絵

—— 『リバーズ・エッジ』を中心に ——

近藤 里帆

伴天連追放令と偶像破壊

佐々木 花絵

写楽と豊国の役者絵比較

細川 カレン

—— 『フロイス日本史』に見るイエズス会 ——

『母性』にみる母親像

森 麻季乃

大原騒動を追う

鈴木 将志

小川ゼミナール

廃仏毀釈における地域の寺の役割

大井 元揮

—— 『夏虫記』と『夢物語』から見る民衆運動 ——

—— 大浜騒動を例に挙げ ——

大井 元揮

天保の改革と歌川国芳

張 替 柚 衣

早川 京 冴

戦中・戦後の宮本百合子の活動とその作品について

—— 主張する作家・宮本百合子 —— 松下 彩伽

戦時下の楠木正成像

—— 国定教科書における英雄像の変遷 ——

水谷 優介

江戸時代後期における修験者と民衆の関係

—— 当山派野田泉光院成亮を例に ——

安井 紳一郎

江戸時代の和算家関孝和

—— 数学書を通して見る孝和の姿 ——

山本 美咲

小早川ゼミナール

ネットロアの形成と特徴

—— 「ぎさらぎ駅」を中心に ——

松阪木綿の歴史と復興

幸福をもたらす妖怪とその零落

白馬のイメージ

—— 神馬と競走馬を例に ——

大治 結暉

民俗芸能・祭礼における天狗

—— 神と妖怪の間 ——

ゴヘイモチ

—— 分布と起源 ——

狐憑きと精神疾患

—— 狐信仰の変容 ——

かしも明治座

—— 芝居小屋の衰退と復興 ——

長良川鵜飼

—— ユネスコ無形文化遺産登録を目指して ——

美濃焼の歴史と現状
道具からみる生活の変化
新しい山車祭礼と地域社会

—— 美浜町野間地区の山車祭礼を中心に ——

将棋の歴史と文化

—— 庶民の娯楽への過程 ——

大藪 大介

酒井 陽基

佐藤 紫乃

千葉 美友

中川 満美子

加納 久美子
中野 心

原田 光輝

藤井 雄也

遊びの変化と社会情勢

—— 浜松市の事例 ——

「桑名のハマグリ」による地域振興

船木成彦
保母さくら

近世における尾張・三河地域の寺子屋と孝義録

中村はる菜

博物館における民具の展示と活用

水野祐一朗

—— 細井平洲を中心に ——

三輪雄都

—— 回想法との関わり方を中心に ——

水野祐一朗

江戸城無血開城における天璋院の動向

横山加奈

近世社会における男色と風俗統制

吉田彩乃

鈴鹿市東玉垣町の唐人踊り

矢野瑞季

花見の民俗

山田優子

中元ゼミナール

名古屋鉄道の南知多開発と日本福祉大学の移転

大下徹

白根ゼミナール

江戸時代における妖怪文化の成立と展開

豊嶋良亮

太平洋戦争期における昭和天皇・皇族と伊勢神宮参拝

葛西秋花

生類憐み令の展開

有田拓哉

箱根駅伝の発展

葛西秋花

—— 尾張藩を参考に ——

有田拓哉

—— 読売新聞社・大学陸上部を中心に ——

加藤万智

近世三河地域の「非人」と身分的周縁

安藤誠

—— 読売新聞社と名古屋新聞社を中心に ——

加藤万智

『北斎漫画』が与えた影響

宇都宮俊平

名古屋汎太平洋平和博覧会とメディア

加藤万智

参勤交代の展開と尾張藩

佐藤崇臣

—— 新愛知新聞社と名古屋新聞社を中心に ——

河合遥香

奥羽越列藩同盟における「小藩の論理」

鈴木柁寛

—— 新愛知新聞社と名古屋新聞社を中心に ——

河合遥香

火附盗賊改役 長谷川平蔵による無宿人対策と人足寄場

住吉文尚

—— 新愛知新聞社と名古屋新聞社を中心に ——

河合遥香

十五年戦争期における大日本蹴球協会の外交術

播磨ゼミナール

愛知県における教科書疑獄事件

小出 陸生
篠田 侑汰

津田宗及の記録から見る天王寺屋会記の性質について

清水 湧太

新聞報道からみた原子力

大友宗麟の従来宗教に対する攻撃的行為の意図について

——『朝日新聞』と『読売新聞』の

杉岡 亮佑

赤根 眞純

——記事分析を中心に——

杉岡 亮佑

織田政権における徳川家康の立場

小黒 洸太

伊勢における神仏分離と浦田長民

織田政権下における九鬼氏について

——神宮動座論・外交論・

関島 可奈子

——「水軍大将」の役割とは——

尾崎 恭佑

——地方行政という観点から——

関島 可奈子

織田信長家臣の成長

香川 真以

二つの万国博覧会と豊田雅孝

——戦前と戦後を比較して——

——木下秀吉を中心に——

香川 真以

——第一次世界大戦前後における

村松 瑛斗

発給文書からみる今川氏真の領国統治

加藤 千晶

日本海軍の戦争計画と海上護衛戦

村山 弘明

——国衆に対する氏真の政策——

加藤 千沙

昭和戦前期における陸軍派閥抗争と渡邊錠太郎

森田 祥太郎

織田政権の越前支配

加藤 千沙

自動車製造事業法及び国民車構想からみる

森田 祥太郎

——織田家臣と「越前国掟」に焦点を当てて——

加藤 柚花

「国産大衆車」の成立

森田 祥太郎

正長年間の播磨国での一揆

加藤 柚花

——トヨタ自工を中心に——

尾関 渉行

——「東寺百合文書」から読み解く——

加藤 柚花

——「国産大衆車」の成立

尾関 渉行

正長年間の播磨国での一揆

加藤 柚花

——トヨタ自工を中心に——

尾関 渉行

——「東寺百合文書」から読み解く——

亀井 久美子

戦国大名今川氏の検地について

木下 希美

遣唐使衰退の一因

豊臣政権のキリシタン政策における

——遣唐使となった貴族の視点から——

「バテレン追放令」の位置付け

栗田 望未

山内 香穂

織田信長と將軍義昭との関係についての考察

——信長禁制を踏まえて——

小林 昇太郎

今川独立後における徳川家康の三河支配

——西三河の支配体制を中心に——

島田 恭輔

村岡ゼミナール

古事記本来の姿を探る

——天御中主神に関する考察——

石川 明里

天文から天正年間における武田氏の侵攻と下条氏の動向

井原 雅貴

応仁の乱から明応の政変時の美濃・尾張の情勢

加藤 孝尚

平安時代における女房の考察

高橋 香央里

中世における庶民女性の性と救済

野呂 紗代美

新田氏と鎌倉への途

——足利一員としての新田義貞——

米田 直生